

『新訂 中国詩文』（二〇一五年発行）正誤表

中国詩文研究会

右テキストの正誤表として、次に主に誤植等による正誤を掲げるほか、これと併せて底本の文字の異同について、別本の文字遣いを括弧内に示した。

箇所	誤	正
5 頁本文第6句	有 ^レ 蕢其實	有蕢其實 ※レ点を削除
15 頁上段第13行	河の水が	川の水が
64 頁第12行	説 ^レ 如 ^レ 此	説如 ^レ 此 ※レ点を削除
89 頁第1行(題名)	干將莫耶	干將莫邪(耶)
89 頁本文第8行	下 ^二 石砥之上 ^一 。	下 ^二 石低(砥)之上 ^一 。
94 頁本文第10行	恒棲 ^二 樹上 ^一 、	恒棲 ^二 樹上 ^一 、
99 頁上段第16行 (注8)	北宋・李昉『太平御覽』卷 八八四は、「太極」とし、	『列異伝』(北宋・李昉 ^{リほう} 『太平御覧』 ^{たいへいぎょらん} 卷 八八四も同じ)は、「太極」とし、
143 頁本文第2句	城春 ^二 草木深	城春草木深 ※二点を削除
178 頁本文第3句	誰看青簡一編書	誰看 ^二 青簡一編書 ^一
186 頁本文第2行	其從妹婿曰 ^二 鄭六 ^一 、	其從妹婿(婿)曰 ^二 鄭六 ^一 、
186 頁本文第4行	鄭氏辭有 ^レ 故、	鄭氏辭 ^レ 有 ^レ 故、
187 頁第3行	即任氏姊也。	即任氏姊(姉)也。
187 頁第5行	舉措皆艶、	舉措皆偏(艶)、
189 頁第6行	膏 ^レ 唇而往。	膏 ^レ 脣(唇)而往。
189 頁第12行	任氏長嘆息曰、	任氏長歎(嘆)息曰、
194 頁第5行	與 ^レ 人頗異 ^レ 焉。	與 ^レ 人頗異焉。 ※レ点を削除
200 頁第3行	首謝 ^二 其事 ^一 。 (62)	首謝 ^二 其事 ^一 。 ※注番号を削除
205 頁第4行	令速食之。訖取虎皮、	令速食之訖。取虎皮、
206 頁第10行	從 ^レ 腳寸寸剉 ^レ 之。	從 ^レ 淩(腳)寸寸剉 ^レ 之。
206 頁第7行	(『太平広記』卷十六所引『続 玄怪録』)	(『太平広記』卷十六所引『続玄怪 録』・明版『玄怪録』卷一)

箇所	誤	正
213 頁 最終行	幸喜得無恙乎。	僕夫得無恙乎。 ※『唐人說薈』にもとづく
214 頁 第11行	不 _レ 忍 _ト 櫻 _ニ 生物 _一 食 _上 也。	不 _レ 忍 _ト 櫻(櫻) _ニ 生物 _一 食 _上 也。
215 頁 第2行	悉擒而咀 _レ 之立盡、	悉擒而咀(阻) _レ 之立盡、
216 頁 第4行	必其望 _レ 念 _ニ 孤弱 _一 、	必其望 _ニ 念孤弱 _一 、
216 頁 第8行	列 _ニ 文人之戸闕 _一 、	列 _ニ 文人之戸闕(口闕) _一 、
216 頁 第12行	今日瓜牙誰敢敵、	今日爪牙誰敢敵、
218 頁 第1行	持 _ニ 書及瑠贈之禮 _一 、	持 _ニ 書及瑠贈(茯贈) _一 之禮 _一 、
21 頁 第4行	(『唐人說薈』)	(『唐人說薈』(『唐代叢書』))
250 頁 第4行	『唐人說薈』系のテキストを	『唐人說薈』(一名清・王文誥『唐代叢書』)系のテキストを

(二〇二二年四月一日)